

関東大震災 94 周年 中国人受難者慰霊式 (2017 年 9 月 4 日、東京都慰霊堂にて)

9 月 4 日、今回は初めて両国横網町公園内の「東京都慰霊堂」において、中国人受難者慰霊式が開催された。被服廠跡と呼ばれていたこの横網町公園は、関東大震災時に多くの被災者の避難場所となり、この地だけで東京市全体の死亡者の半数以上の 3 万 8000 人程度が死亡したとされている。その後の東京大空襲による身元不明の犠牲者を含めた被災者が納骨されている場所である。

この東京都慰霊堂の中に、特別に中国人受難者追悼の幕が張られ、慰霊式が行われた。中国人受難者慰霊式、と書かれた横断幕の横には、吉林義士王希天追悼と温処旅日蒙難華工追悼の垂れ幕が掛けられ、真ん中には、関谷興仁さんによる「悼」の陶坂が据えられた。そして左右には、義士王希天遺族、旅日蒙難華工遺族、中華人民共和国駐日本国大使館、東京華僑総会、一般社団法人日本温州総商会、一般社団法人日中協会、岡山県華僑華人連合総会、旅日華僑中日交流促進会、関東大震災中国人受難者を追悼する会の花がそれぞれ供えられた。



最初に田中宏が主催者挨拶。

訪日団遺族が前に並び、遺族を代表して周江法氏が、訪日団を代表して黄愛盛氏が挨拶した。

来賓挨拶は駐日中国大使館田培良参事官(写真)が、「当時、大震災の直接の難から免れた在日中国人のなかで 700 人以上が故無き殺戮に遇い命を落としました。しかもその虐殺は長い間証拠隠滅されてきました。…日本側に対して、歴史遺留問題を正しく解決し、きちんと政治的・道義的責任を負い、実効ある行動を以て、歴史反省の約束を具体化していただきたい」と述べられた。さらに参議院議員・社民党副党首福島瑞穂氏、地元江東区の区議会議員中村まさ子氏から挨拶をいただいた。荒川区議会議員の斉藤ゆうこ議員も参加された。メッセージは衆議院議員の近藤昭一氏、初鹿明博氏。



献花の前に、いつも歌を献げてくれる在日韓国人 2 世のイジョンミさんが思いを語った。

東京都慰霊堂で行われた中国人受難者慰霊式の様子は中国メディア、中央電視台 CCTV や新華社によって中国でも大きく放映され、関東大震災時の中国人虐殺とその追悼活動が中国でも大きなニュースになった。

4 日午後には、訪日団は、内閣府を訪れ、中央防災会議への申し入れ、2014 年の請願書に関する催促書を提出(左写真)。また外務省交渉を行った。「対政府交渉」参照





先立つ9月2日、堀切教会を訪問。王希天は、僑日共済会の活動に当たって、当時労働運動などの先頭に立っていた賀川豊彦に特別の関心をよせていた。9月2日、その賀川豊彦が設立した堀切教会を訪問して、真鍋牧師から話を伺った。その後荒川河川敷の韓国・朝鮮人犠牲者追悼式に参加。

9月3日には、「関東大震災中国人虐殺を考える集い」が開催された。同集会実行委員会の呼びかけ人は、関東大震災中国人受難者を追悼する会の川見一仁とともに、地域の加瀬純二（ふれあい江東ユニオン）、平野敏夫（亀戸ひまわり診療所）、村田文雄（朝鮮問題を学ぶ江東区民の会）、大内英夫（江戸川地区労センター）、小畑精武（江戸川ユニオン）、山本裕子（下町ユニオン）、飯田勝泰（東京労働安全衛生センター）の各氏。

黙祷の後、遺族を代表して黄愛盛氏が挨拶。関東大震災の時殺された中国人労働者を悼む会制作の記録映像『80年前何があったのか』（仁木ふみ子さん達が温州を訪ねたビデオ）を上映。訪日遺族からは林学進氏、林小華氏が発言した。林伯陽氏が福建省の被害者の調査報告。

次に、温州大学人文学院副院長・温州市歴史学会会長の劉建国氏（写真）が『東瀛惨案』に於ける中国と日本両政府間の交渉」と題して講演した。

訪日団の発言の後に、関連地図紹介、2016年8月に行われた「ソウルにおける韓国で初めての朝鮮人追悼式」のビデオ紹介、ふれあい江東ユニオンの加瀬純二氏が連帯の挨拶をした。

最後に実行委員会から、訪日団の入国時に審査の嫌がらせがあって入国が遅れたことに対する抗議の訴えがあった。

9月12日には、王希天烈士記念日本訪問団による王希天虐殺現場である逆井橋を初めとする現地参観と追悼活動、王希天烈士記念座談会が行われた。座談会では王希天虐殺の真相を調べ上げた田原洋さんのお話を聞いた。

